

# おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 14 号 (8 月 4 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Yリーグ 連勝する

8月1日(土)、2日(日)と8月のYリーグ2連戦が行われました。会場はどちらも天童第2。人工芝ピッチでの8月の連戦。うだるような暑さの中、へばらなかつた方が試合に勝つことが予想される。初日の相手は鶴岡東。3年生がいたときの鶴東との初戦は、1点ビハインドの中、試合終盤に3年鬼嶋の絶妙トゥキック(つま先でのキック)で同点にし、その後逆転して勝利した、思い出深い試合。今度、こちらは新人チームながら、新人とか3年いるとか、そういうことを言って負けたときの言い訳を最初から作らないという方針の下、前回同様に勝つ気で試合に臨みました。試合には多くの保護者の皆様とともに、多くのOBの方々が応援に駆けつける。なかでも奥山OB会副会長は「顧問ば応援に来たんだじえ」と心強い(?)一言。前節、顧問不在で圧勝したので、試合に際し顧問今野がいた方が良いのか、いない方が良いのかという問題に決着をつける意味で、興味深い一戦。いやあ、冷や汗が出ますね。

さて試合は前半早々にCK(コーナーキック)から市村がドンピシャヘッドで先制。MFが本職ながら、チーム事情のためDFで先発の市村がその攻撃力を見せ付けた場面。早くも試合展開を楽にさせる。その後、山東が押し気味に試合を進める中、藤盛がスルーパスを受け抜け出し、GKとの1対1を難なく決め、追加点を入れる。「前節から勢いが続いているなあ(前日の山形中央との練習試合はぼろぼろだったけどね)」などと気楽になって考えていると、今度は前がかかった鶴岡東の猛攻を受ける。長いボールのセカンドボールを拾われたり、短いクリアボールを拾われたりで、高い位置で起点を作られた後、ゴール前まで迫られ、立て続けにビックチャンスを作られる。ただ、シュートは幸運にも山東ゴールマウスの外に行く。その後一進一退を繰り返し前半終了。しっかり決めるのも実力だと考えれば2-0の折り返しは実力の反映でしょうが、なんとも危なっかしい試合運び。決して好調とか、実力が付いてきたといえない前半。

そんな不安定さが後半早々に、というか開始直後に露呈。大きくバウンドするボールをGKが後ろに逸らす判断ミス。スコアは2-1に。2点のリードがあったから心理的にはまだ余裕がありましたが、やってはいけないミスには変わりなし。でも、こういう経験を積みながら大きくなるんです!後半は山東ペースで試合が進む。サイドハーフの仕掛け、サイドバックのオーバーラップ、FWのポストプレーやドリブル、ボランチのボール奪取などなど、結果がどうだったかは別にして、狙いとすることが分かるプレーが多く、決して悪くない内容。松永のとどめの追加点で勝負あり。結局3-1という、前回の鶴東との対戦と同じスコア。ともかく、OBの皆様に「私がついて

も勝ちました」との報告をさせてくれた選手諸君に感謝する一戦でした。

そして明るく日、新庄東との対戦。前回の対戦では、新人チームになって初戦のチームが持つ甘さを存分に突かれ、良いところは前半の入りのみで、0 - 3で粉砕されている（しかも主力は温存されて）。県総体3位で東北大会に行ったチームの力を見せ付けられました。今回も新東の方に分があるのは当然ですが、そこを何とか面白い勝負にしたいと内心意気込んで試合に臨みました。

前半、新東の洗練されたパス回しに翻弄される山東。タッチ数が少なく、まさにポンポンとボールが回る。ボール保持者（Onの選手）のボールコントロール・判断力、パスを呼び込む選手（Offの選手）の効果的な動きが一体となったすばらしいサッカー。山東の「出たところ勝負」のパス回し（1対1の連続によるパス回し）とはワンランク違う印象。まさに敵を呼び込んでボールをはたき、数的優位を作って落ち着いてボールポゼッションする、そんなサッカー。しかし決定力不足か、決定機を外す新東。決定機を外すと悪い流れになるのは勝負の法則。ルーズボールを藤盛が拾いドリブルを仕掛け、そこからハセガワユウ（モンテ）のような、左足インフロントにかかったシュート一閃。ゴール左（ゴールを背にして右）に、セービングするGKを巻いて入るビューティフルシュートが決まる。こんなシュートができるのか、と驚くくらい素晴らしいシュート。ボールポゼッションの新東、カウンターアタックの山東といった前半。1 - 0で何とか折り返す。

ハーフタイム、「前回負けてるから、今回は勝ちたいんだ」と自分の感情を吐露した顧問の気持ちが通じたか、後半の入りは良い。ボランチを経由したビルドアップ、サイドハーフとサイドバックの連携による攻撃が少しずつ形になっていく。そんな中、右MF賢祐が中央に切り込んでから、バイタルエリア（DFラインとMFラインとの間のスペース）に下がりながら顔を出していたFW松永にパス。松永はディフェンスラインとの距離を測りながら、前を向き、左に流れる絶妙な動き出しとトラップ。その時点で「ナイスプレー」との声をかけていたが、その後に放たれたシュートは、またしてもゴール左にGKを巻いて入るシュート（ハセガワユウ効果だ！！）。2 - 0。そして続けざまに攻める山東。左で藤盛がためて（余裕を稼いで）右足でセンターリング、それを右MF賢祐がゴール前でヘディング。ややゴールから遠かったものの、しっかり上体を振ったヘディングシュートはゴールに突き刺さる。新東相手に3 - 0！！シュート本数は少ないながら、練習でも見たことがないような素晴らしいシュートがなぜか決まり、一気に勝ちモード。

その後、怪我のため出場を見合わせていた新東の選手がピッチに入り、新東の攻撃が加速する。Yリーグ1部で最多得点数ながら、失点数もトップクラスの山東は、何とか無失点で行きたいと願う。しかしゴールをこじ開けられ3 - 1。「ん～、時間もまだ15分くらいあるし、まずいか」と焦っていると、FW松永が左からのセンターリングを胸トラップし、そのまま体を入れながら左に持ち込み、反転して左足シュート。それがGKの股を抜くシュートとなり4 - 1。正直、出来すぎです。その後、「あとは無失点な！」の声も空しくもう一点献上するも、4 - 2の立派な勝利。怖いくらいの決定力・・・運を使い果たしていないか、心配です。

ともかく、調子に乗り過ぎないようにしながら、夏場、トレーニングに励みます。